

25	北設	設楽町立設楽中学校	オオクボ アキ 大久保 明
分科会番号	17	分科会名	過密・過疎、へき地の教育

仲間とともによりよい村づくりを目指し、自分事としてふるさとの将来を考える生徒の育成
—中学2年地理『目指せ！豊根の「さいこう」』の実践を通して—

1 主題設定の理由

2年生は男子2名、女子3名の計5名のクラスである。本校が位置する豊根村は、人口約1,000人という過疎地域である。村は「2060年に人口900人維持」を目標に様々な政策をとっているが、2022年7月時点で人口が1,000人を割った。生徒の豊根村への考えを調査したところ、以下の結果が出た。

<豊根村に関するアンケートの結果>

- ・豊根村が好きか？ 好き2名 普通3名 嫌い0名
好きな理由：自然が好き。緑に癒される。
普通な理由：人が面白い。思い入れがあるが、不便。自然が好きだけど、店がなく不便。
- ・将来豊根村に帰ってきたい・住みたいか？
帰ってきたい・住みたい3名 そう思わない2名
帰ってきたい理由：不便だが、涼しいし人が少なくてよい。自然がよい。都会がきらい。
そう思わない理由：やっぱり大人になったら都会がいい。住みにくい。

この結果から、5人とも豊根村のことが嫌いではないが、不便さを強く感じる生徒は村外へ出たいと考えていることが分かった。そこで、豊根村のよさを再確認し、新たに見つける活動をすることで、村を見つめ直させたいと思った。そして、豊根村の将来に関心を持ち、自分事としてよりよい村づくりを目指す生徒になってほしい。

以上の理由から、本研究主題を設定し、単元名を『目指せ！豊根村の「さいこう」』とした。右に示した「さいこう」をもとに豊根村の現状を知り、将来を考える。また、「将来、都会に住みたい」

【「さいこう」に込められた意味】

再考：地域の良いところや改善すべきところの見つめ直し。
最高：地域の良いところ。他地域の人に自慢できるところ。
再興：再び地域を興す・活性化できそうなところ。
さあいこう：将来が明るくなるための提案。

と考える生徒がいることや、国内研修で東京都へ行くことから、東京都と豊根村を比較しながら、豊根村の将来を考える単元を構成する。

2 研究の目標及び仮説

(1) 研究の目標

仲間とともによりよい村づくりを目指し、自分事としてふるさとの将来を考える生徒の育成

(2) 仮説と手だて

仮説 他地域と比較して村の特色を知るとともに、地域の人々の思いを知る機会を設ければ、よりよい村づくりを目指し、自分事としてふるさとの将来を考えることができるだろう。

手だてⅠ：豊根村を東京都と比較する。

(比較の視点：①自然環境 ②人口、都市・村落 ③産業 ④交通・通信 ⑤生活・文化)

手だてⅡ：豊根村に住んでいる・働いている人から意見を聞く。

手だてⅢ：「さあいこう」提案を行政に伝える。

3 研究の方法

(1) 単元構想

	単元を貫く思い	学習活動（発問）	・内容
つかむ			<p>豊根村は将来どうなっているの？①<手だてⅠ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去と将来の豊根村の人口推移の資料を見て、将来の豊根村を想像する。 ・国内研修で行く東京都の人口と比較する。 <p>東京都と豊根村を比べて、村の「さいこう」を目指そう！</p>
深める			<p>豊根村ってどんなところ？②③④<手だてⅠ・Ⅱ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・村勢要覧などの資料で調べる。 ・村に関わっている人に聞き取り調査。 <p>5つの視点で、模造紙にまとめる。</p> <p>東京都ってどんなところ？⑤⑥⑦⑧<手だてⅠ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書・地図帳等で調べる。 ・国内研修でわかったことも含める。 <p>5つの視点で、模造紙にまとめる。</p>
まとめる			<p>東京都と比べた豊根村の「さいこう」は何だろう？⑨<手だてⅠ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊根村と東京の学習まとめを比較する。 <p>豊根村の「さあいこう」案をつくろう！⑩⑪⑫<手だてⅢ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊根村の現状から、将来を見据えた提案をまとめる。 ・行政に提案を伝える。

(2) 抽出生徒について

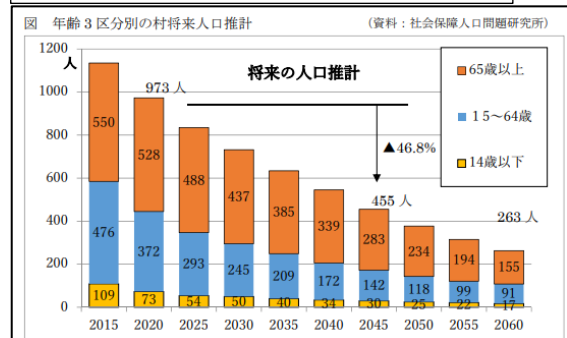
生徒Aは豊根村について、「好きでも嫌いでもなく普通。思い入れがあるが不便。」、将来は豊根村を出たいと考えている。東京都と比較して豊根村の「さいこう」を考えることで、豊根村のよさや、知らなかった一面を発見してほしい。また、よりよい村づくりに参画しようとする態度を育てたい。

4 実践と考察

(1) 豊根村の将来を人口から考える<手だてⅠ>

まず、豊根村の現状について確認した。生徒たちは「人口が少ない。」「山ばかりで魅力的な所が少ない。」と答えた。豊根村の現状を具体的につかめるように、豊根村の「これまでの人口推移」と「年齢別人口割合の推移」などの資料を提示した。生徒たちからは、「もう1,000人切ってしまったんだね。」「豊根の2人に1人は65歳以上だ。」という反応があった。数値から豊根の現状をより具体的に読み取ることができた。そして、将来の豊根村へ視野を広げるために、行政が作成した「将来の人口推移」(資料1)のグラフを見せた。生徒Aの「こ

【資料1】村の将来の人口推移



【資料2】授業記録

全員：えー！将来終わってるわ。
 生徒E：2060年子ども17人？
 生徒A：先生、もうどうしたらいいの？
 生徒C：外国人いっぱい呼ぶしかない。
 生徒A：引っ越してきてくださいって呼びかけても、
 こんな住みづらいところ人来ないよ。店で
 ても人来ないと意味ないし。

んな住みづらいところ人来ないよ。」からは、村の将来にマイナスのイメージを感じていることがうかがえる（資料2）。そして、人口減少の原因を考えるために、将来の豊根村についてのウェビングマップを作成した（資料3）。すると、「働く場所がない」、「観光地である茶臼山の人気がなくなってしまうのではないか」などの暗い将来がでてきた。

豊根村の現状や将来について具体的に考えた生徒たちに、比べる対象として国内研修で行く「東京都の人口推移のグラフ」を見せた。生徒たちは「真逆ですね。」と驚いた（資料4）。そして、東京都に人が集まる理由を話し始め、「魅力があるから」という意見が出た。そこで教師が、「豊根の魅力はないの？」と問いかけると、「あるけれど見つけられていないだけ。」「探しに行くか。」という反応があった（資料4）。そこで、豊根村と東京都の特色を比べて、豊根村の「さいこう」を考える『目指せ！豊根の「さいこう」』というテーマを設定した。

生徒Aの振り返りには、「村の未来は明るくなかった。」と書いてあった。また、資料2の「先生、もうどうしたらいいの？」という発言から、豊根村の人口に関する資料を見せたことで、将来への危機感を抱いたことがわかる。

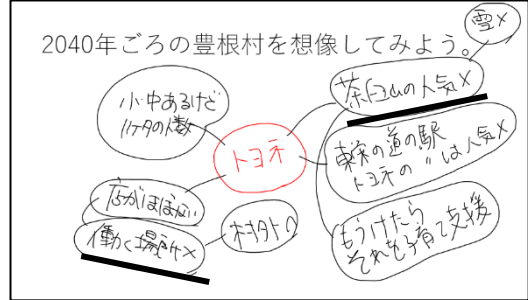
(2) 豊根村の特色を知る(再考)
 <手だてI・II>

ア 豊根村をさまざまな視点で調べる<手だてI>

調べ学習を行う前に、さまざまな視点で豊根村を分析するために5つの視点を提示した。生徒たちはそれぞれ視点の一つを選び、分担して調べていくことにした。資料は村勢要覧や役場から集めたデータを活用した。生徒Aは交通を担当し、「がんばらマイカー」という村独自の高齢者向けの交通サービスに目をつけた。生徒Aは資料5のようにまとめ、高齢者が増えていくことでがんばらマイカーの需要が高まっていることをとらえることができた。

各自が5つの視点で調べたことを発表し合った後、発表の感想を付箋に書き、発表者に渡した。生徒Aの書いた付箋「まさかブルーベリーよりトマトのほうがか約8倍ももうかっているとは思わなかった」(資料6)や、「豊根に住んでいても知ら

【資料3】ウェビングマップ



【資料4】授業記録

生徒A：真逆ですね。
 生徒C：なんでそんな東京に行っちゃうの？
 生徒C：魅力があるから。憧れる。
 生徒A：私も憧れる。
 教師：豊根の魅力はないの？
 生徒C：見つけられない。
 生徒B：あるけど、見つけられてないだけ。みんなが。
 生徒E：ないわけない。探しに行くか。

【資料5】生徒Aの調べ学習まとめ

がんばらマイカー
 免許のない方や交通手段のない方などの生活の足を確保するため、地域住民のボランティア運転手がマイカーを利用して、自宅から目的地まで送迎してくれる。(村勢要覧)

- 平成3年から利用者は増えている。
 ↳免許を持たない高齢者が増えている。
- 多いときは1年で250万円以上かかっている。
- 平成29,30年度は利用者が減っている。

(作明氏)

がんばらマイカーの需要が高まっている
 ↳移動できる足が必要とされている(高齢者)

【資料6】生徒Aが書いた付箋

「まさかブルーベリーよりトマトのほうがか約8倍ももうかっているとは思わなかった。」「豊根に住んでいても知ら

ないことが多いなと思った」という振り返りから、さまざまな視点から豊根村の特色をより具体的に知ることができ、豊根村について「再考」したことがわかる。

イ 豊根村に関わっている人に話を聞く<手だてⅡ>

生徒たちから豊根村に住んでいる人の話も聞きたいという意見が出たので、豊根村に長く住んでいるMさんと、村外から来た地域おこし協力隊の3名の計4名をゲストティーチャーに招いた。話しやすくするために、生徒を3班に分け、それぞれ10分ずつ話をした。生徒たちは「豊根村のよい所はどこか。」「豊根村から出たいと思ったことはあるか。」などの質問をしたり、質問を受けたりした。

生徒Aは「花祭りが好きで豊根村に帰ってきた。」というMさんの話から、振り返りに「豊根村の好きなところを1つでも多く見つけたい」と書き、前向きな考えをもったことがわかる。また、「人が少ないところも魅力だ。」という地域おこし協力隊の話から、人の少なさも豊根村の良さだという捉え方を知った。最後に、聞き取ったことを全員で整理した。野菜をくれたりお返しをしたりする豊根村の文化から「豊根には温かい人が多い」、協力隊の人々が自然や広大な土地を生かしたいと思って村を訪れたことから「豊根はやりたい事や新しい事ができる場所である」とまとめた。村の人との交流により、新たな見方を知り、豊根村を「再考」するとともに、豊根村の「最高」な魅力を発見できた。

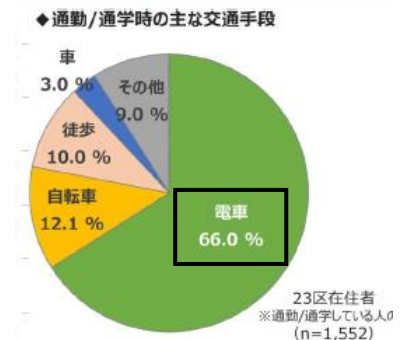
(3) 東京都の特色を知る<手だてⅠ>

ア 東京都をさまざまな視点で調べる<手だてⅠ>

続いて、豊根村と比較するために、国内研修で行く東京都を調べることにした。生徒たちは、教科書や地図帳を活用して調べていった。生徒Aは、「いろいろな交通手段があって、豊根とはまるで違った」とまとめた。調べ学習の発表では、生徒Aは、「通勤/通学時の主な交通手段」という資料をもとに、約66%の人が電車を利用していると発表した(資料7円グラフの

【資料7】生徒Aのまとめ(一部)

電車
通勤・通学で半数は電車を使っている
車もっていない
停車駅がたごみある
放射線状に都内から郊外へ広がっている



□)。この発表への反応から(資料8)、東京都を調べることで、自家用車が必須である豊根村の交通の特色をより理解することができたと考える。

イ 国内研修を生かす<手だてⅠ>

東京都の調べ学習を行った後、2泊3日で東京都へ国内研修に行った。前時で、地価に興味をも

った生徒Aは「東京で会った人に家賃を聞いてもいいかな?」と東京の暮らしについての質問を考えていた。国内研修後、東京での研修で、わかったことを5人全員で話し合った。「電車の本数がとても多かった。」「外国人がたくさんいた」など、実体験をもとに5つの視点でまとめた。生徒Aは事前に考えていた質問を人力車の方に聞き、「やっぱり一人暮らしの家でも家賃は高かった」とつぶやいた。現地の人に質問することで、調べたことが事実か確かめることができた。他の生徒も「行って見てやっぱりそうだったものもあるが、行ってから気づいたものもあった。豊根とは大違い。」と振り返り、実際に東京都に足を運ぶことで豊根村とのちがいを発見できた。

(4) 豊根村と東京都を比較する(「最高」と「再興」を見つける)<手だてⅠ>

【資料8】授業記録

生徒C: 東京の人は免許もってないのかもね。
生徒A: それもそうだし、車買っても駐車場が高くてお金がかかるのかなと思った。
生徒D: パパなんか通勤で車を結構使うよ。
生徒C: 私たちの場合だと、100%車になりそうだよ。

これまでの授業のまとめとして、村の「さいこう」を考えた。

まず、5つの視点それぞれに、どちらの方が優れている（「最高」）かを考え、選んだ方にハートの付箋をはるように指示した。資料9の結果から、意見が分かれた「人口」「産業」「生活文化」の視点で話し合うことにした。

「人口」の話し合いでは、豊根村の人の温かさと、東京都の人の多様性の2つで悩んでいた。その中で、「人口が多い良さもあれば、少ない良さもある」と生徒Dが発言した（資料10）。生徒Aも「人口が少ないことがメリットにもなる」と豊根村を選んだ理由として挙げていた。最初は、豊根村のコンプレックスと考えていた人口減少を、村に関係する人の話からプラスとも捉えていることがわかる。

次に、「産業」について話し合った。「産業」については、生徒Aのみ迷っていた。生徒Aは当初、「東京の観光業が圧倒的だと国内研修で感じたけれど、豊根にはチョウザメやトマトなどいろいろな産業がある。」と悩んでいた。しかし、話し合う中で、生徒Cの「チョウザメもすごいけど、それを知らない人も多いよね。」という知名度に関する発言に生徒Aは納得し、「産業」は東京にすることになった。

その後の「生活文化」についての話し合いでも、それぞれの特色を比較しながら判断することができた。

このように、さまざまな視点から豊根村の「最高」を深く考えたり、諸地域の特色を理解して多角的に比較したりできたと考ええる。

最後に、豊根村の改善が必要なところ（「再興」）を考えた。前の活動で、「チョウザメの知名度が低い」、「お祭りを受け継ぐ人が減っている」などの課題も見えてきたことから、全員で16の「再興」がでてきた。生徒Aは運転ができない人の移動手段を増やすことや、田舎思考の人を呼び込むこと、若者が魅力に感じる仕事を増やすことなど、多角的に「再興」を考えた。東京都と豊根村を比較する中で、豊根村の自慢できるところ（「最高」）や改善が必要なところ（「再興」）を発見し、村について深く考えることができたとわかる。また、生徒Aは振り返りに、「豊根も東京とはりあえるところがあった。それを気づいてもらえるようにしたい。」と書き、前向きに村の将来を考えることができていたとかがえる。

（5）豊根村の「さいこう」案を行政に提案する（「さいこう」）〈手だてⅢ〉

ア 提案内容を考える〈手だてⅢ〉

生徒Aの「はりあえるところに気づいてもらいたい」という思いや、これまで考えてきた豊根村の「最高」と「再興」を地域の人に伝えたいという生徒たちの思いから、村役場の方に

【資料9】「最高」はどっち？

豊根	視点	東京
5	自然環境	0
(4)	人口	(1)
(1)	産業	(4)
0	交通	5
(3)	生活文化	(2)

※ () は迷っている票。

【資料10】授業記録

〈人口について〉

教師：豊根の人口の良さは？

生徒BDE：優しい人が多い。

生徒E：東京はあまり優しくないイメージ。

生徒D：東京は優しい人がいるかもしれないけど、関係が少なそう。

生徒A：豊根の人は野菜くれるよ。

生徒C：同級生がもっと多い方がいいよ。

生徒D：人が少なすぎるのもよくない。

生徒B：東京は外国人が多くていいなと思った。

生徒D：多い良さもあれば、少ない良さもあるし、どっちもどっち。

【資料11】生徒Aの提案

ならではを感じる村！

村民の皆さんも、観光客の皆さんも「豊根ならでは」を感じられる村を考えました。

例えば、自然豊かなところや、季節がはっきりしているところが「豊根ならでは」なところだと思います。豊根でしか感じられない感覚を体験する、していただくのはどうでしょうか？

私の案として、空き地を使って豊根のもので作ったものを
出店するマルシェを開催してみてもどうでしょうか？

特産品を使った食べ物やチョウザメの鱗アクセサリーの
レパートリーを増やして出店してもいいかもしれません。

他にもチョウザメを実際に見たりできるところや、
お店を回るスタンプラリーを開催して、
きてくださったお客さんや村民の皆さんに、
豊根村のいいところを感じてもらおうなど、
そんな企画を増やしてみてもいいのではないのでしょうか？

自然環境というここにしかない特徴と、今まで
気づいてきたものを存分に生かした企画を作ることで、
より多くの人に「豊根ならでは」を感じてもらいたいです。

中学生の「さあいこう」案を提案しようということになった。生徒Aは「ならではを感じる村」を目指し、空き家を活用したマルシェを開催することや、スタンプラリーをするなど豊根村の自然を生かした観光を提案した(資料1 1)。生徒Aの振り返りの「豊根のよいところを生かした案を考えることができた」から、よりよい村づくりへの参画する中で、自分事として村の将来を見つめることができています。

イ 提案を行政に伝える<手だてⅢ>

生徒の「さあいこう」案を役場職員に送ると、5名の職員から計11枚もの返事が来た。案全体への感想では、人口が増えればそれでよいという考えではなく、人口が少ないが故のよさを考慮した上での提案だと、ほめていただいた(資料1 2)。それぞれの感想に目を通した生徒Aは、「温泉の駐車場があったか」

と違う見方に気づくことができた(資料1 3)。別の職員は生徒Aに対し、「面白そうな提案だから現実的に考えてみました」という新たな提案をしてくれた。生徒たちは「こんなにも書いてもらえてすごい」「ほめてもらえてうれしい」と喜んでいて、自分たちの考えた「さあいこう」案を実際に行政に関わっている人に認めてもらえたことで、村づくりへの気持ちを高めることができた。

5 成果と課題

(1) 仮説1について

ア 手だてⅠについて

豊根村と東京都の人口推移を比較することで、将来、村から出ていこうと考えていた生徒Aは村の将来に危機感をもち、「村の将来を明るくする」ことに関心が向き、豊根村の「さあいこう」を考えるきっかけとなった。

豊根村の「最高」「再興」を見つけるために、さまざまな視点から東京都と比較することで、村のよさを再確認したり、課題を見つけたりすることができた。国内研修を実地調査として活用したことで、豊根村との違いを肌で感じることもできた。

イ 手だてⅡについて

地域の方と関わる機会を設けたことで、村の課題に目を向けるのではなく、「一つでも多くの好きなところを見つけたい」という思いをもち、前向きな考えをもつことができた。

ウ 手だてⅢについて

「さあいこう」案を行政に伝える活動を通して、村づくりへの気持ちを高め、自分事として村の将来を考えることができた。

以上から、手だてⅠからⅢは、自分事としてふるさとの将来を考えることに有効であった。

(2) 課題

- ・少人数であるため、グループで調べ学習を行うことができず、考えを深めることが難しかった。
- ・東京都と豊根村のどちらが「最高」かを判断することは村を見つめ直すことに有効であったのか。

【資料1 2】生徒全体への感想

豊根村の人口を増やしすぎても豊根村の良さがなくなってしまう(現状から500人くらいの増・1,300人くらいの人口を目指す)、今の豊根村を残しつつや人が少なく静かで過ごしやすいなどといった意見が複数の生徒から挙げられていた。中学生の皆さんが、人口が少ない現状の豊根村の良さを感じていて、都会になることを目指して人口を増やすことだけを考えていないところが素晴らしいと思いました。

【資料1 3】生徒Aの提案への返事(一部抜粋)

「豊根ならではの素晴らしい言葉だと思います。

自分も、いろいろな人が、自分の思う「豊根ならではの」を持ちよれば、すごく楽しくておもしろいマルシェができると思っております。温泉の駐車場を使ってマルシェができないか?という案も出ております。マルシェが実現した時には、ぜひ、Aさんにも出店してもらいたいです。